

フィンランドの「アアルト建築群」、ユネスコ世界遺産に登録

～アルヴァ、アイノ、エリッサ・アアルトが手がけた人間中心のモダニズムを象徴する 13 の建築作品が新たな世界遺産に～



アアルト自邸 クレジット：Juho Kuva

フィンランドを代表する建築家・デザイナーのアルヴァ・アアルトと、建築家としてアルヴァと協働したアイノ・アアルトおよびエリッサ・アアルトが手がけた 13 の建築作品からなる「**アアルト建築群**」が、ユネスコ世界遺産一覧表に正式に登録されました。今回の登録は、フィンランドの文化遺産および近代建築史における大きな節目となります。

フィンランド各地に点在するアアルト建築群は、光や自然、日常生活との調和を重視した、独自の人間中心のモダニズムを体現しています。これらの建築は、人々の暮らしやウェルビーイング、環境をデザインの中心に据えることで、アルヴァ、アイノ、エリッサ・アアルトが近代建築のあり方をいかに再定義したかを物語っています。象徴的なコンサートホールや市民施設から、実験的な住宅、産業コミュニティに至るまで、多様な建築作品を巡ることで、訪れる人々は、約 1 世紀を経た現在もなお、その意義と魅力を失わないアアルトのデザイン遺産に触れることができます。

ユネスコ世界遺産「アアルト建築群」を構成する 13 の作品



(左) フィンランディア・ホール クレジット : Pete Laakso、(右) アアルト・スタジオ クレジット : Brahmma Wijaya/Helsinki Partners

フィンランディア・ホール（ヘルシンキ）

ヘルシンキのトーロ湾岸を代表するランドマークであるフィンランディア・ホールは、アアルトの最も著名な建築作品の一つです。印象的な大理石のファサードと堂々たる佇まいは、文化外交の舞台として果たしてきた役割を物語っています。また、現在もコンサートや公共イベントの会場として広く利用されており、文化を誰もが享受できる場として重要な役割を担っています。

館内には、常設展「Visions of Alvar Aalto」のほか、アルヴァ・アアルトのデザインに着想を得た空間で滞在を楽しめる 2 室のデザインアパートメント「Finlandia Homes」も設けられています。

アアルト自邸（ヘルシンキ）

ヘルシンキのムンッキニエミ地区にあるアアルト一家の自邸は、近代的な暮らしのあり方と、アルヴァとアイノ・アアルトのデザイン哲学を体現しています。当時の姿をとどめるインテリアと多彩な素材使いが特徴で、家族の日常と創作活動が一体となった空間となっています。

人に寄り添ったスケール感と、細部まで緻密に設計された空間は、アアルトの人間中心のモダニズムを象徴しています。ガイドツアーに参加することで、アアルト一家の日常生活やデザイン哲学への理解を深めながら、邸内を見学することができます。

アアルト・スタジオ（ヘルシンキ）

ムンッキニエミ地区にあるアアルト・スタジオは、アアルト自邸からほど近い場所に位置し、アルヴァとエリッサ・アアルトの建築活動の拠点として使用されていました。自然光を生かした設計や開放的なワークスペース、実験的な工夫が随所に取り入れられており、アアルト夫妻のデザインプロセスや共同作業の手法を具体的に知ることができます。スタジオはガイドツアーで見学できます。



(左) 国民年金協会本部 クレジット：Brahmma Wijaya/Helsinki Partners

(右) パイミオのサナトリウム クレジット：Visit Finland

国民年金協会本部（KELA、ヘルシンキ）

国民年金協会本部は、福祉国家が形成されつつあった時代を象徴する建築です。上質な素材、綿密に設計された空間、豊かな自然光を組み合わせることで、社会の近代化を体現すると同時に、行政施設でありながら親しみやすく、人に寄り添う空間を実現しています。

文化の家（ヘルシンキ）

モダニズム建築を代表するランドマークである「文化の家」は、建築、文化、市民社会が交わる場として重要な役割を果たしてきました。用途に応じて柔軟に使える内部空間と独創的なデザインは、公共イベントや公演の会場としての機能を反映しています。館内には、ランチを提供する「Bistro & Bar Söpu」のほか、ライブ音楽やコメディ、さまざまな文化イベントを楽しめる活気あふれるクラブ「KULT」もあります。

パイミオのサナトリウム（パイミオ）

人間中心のモダニズムを代表する傑作であるパイミオ・サナトリウムは、患者の心身の回復を総合的に支える療養環境として設計されました。患者のウェルビーイングに配慮し、建築、照明、色彩の一つひとつが綿密に設計されており、医療施設のデザインに新たな可能性を切り開きました。現在も、世界で最も完全な状態で保存されている結核療養所の一つとして知られ、ガイドツアーや展覧会に加え、レストランや宿泊施設も利用できます。

マイレア邸（ポリ）

マイレア邸は、近代住宅建築を代表する傑作の一つとして世界的に高く評価されています。芸術、建築、自然を一体的に融合させた空間に、細部までこだわったインテリアと美しく整えられた庭園景観が調和し、洗練された近代の暮らしと有機的なデザインの理想を体現しています。ガイドツアーでは、邸宅の建築や歴史、所蔵されている美術品について詳しく知ることができます。

スニラ・パルプ工場住宅地区（コトカ）

スニラは、産業、住宅、自然が調和した、機能主義的な都市計画を代表する地区です。製紙工場の従業員のために設計された森林に囲まれた住宅環境には、平等、健康、そして一人ひとりの暮らしへの配慮が反映されています。建築、社会福祉、労働が一体となった、初期の産業モダニズムを象徴する場所です。



（左）セイナツツァロ村役場 クレジット：Tero Takalo-Eskola／Visit Jyväskylä

（右）ユヴァスキュラ大学アルト・キャンパス クレジット：Julia Kivelä

スリークロス教会（三つの十字架の教会、イマトラ）

革新的な設計で知られる「三つの十字架の教会」は、宗教建築とモダニズムの表現を融合させた建築です。自然光を巧みに取り入れた空間、用途に応じて柔軟に使える設計、周囲に広がる森が、精神性、自然、建築の間に力強い対話を生み出しています。

セイナツツァロ村役場（ユヴァスキュラ）

セイナツツァロ町役場は、近代的な地方自治と民主主義の理念を建築として表現した建物で、行政、地域社会、日常生活を一つに結びつけています。中庭や公共スペースを取り入れた空間設計は、人々の交流や市民参加を促し、特徴的なレンガ造りの建築が、その土地ならではの確かな存在感を生み出しています。町役場はガイドツアーで見学できます。

ユヴァスキュラ大学アルト・キャンパス（ユヴァスキュラ）

ユヴァスキュラ大学のアルト・キャンパスは、建築、景観、機能が調和し、学びを支える一体感のある大学環境を形成しています。有機的な配置とレンガ造りの建物群が、教育や学術研究にふさわしい、落ち着きと創造性に満ちた空間を生み出しています。

ムーラツツァロ実験住宅（ユヴァスキュラ）

湖畔の豊かな自然に囲まれたムーラツツァロ実験住宅は、アルト夫妻が建築研究を行うための実験の場として使用されました。中庭や多彩なレンガ使いには、実験精神と、素材や造形を深く探究する姿勢が表れています。夏季には一般向けのガイドツアーが開催され、建物を見学することができます。

セイナヨキ行政・文化センター（セイナヨキ）

セイナヨキ行政・文化センターは、行政、文化、宗教の各施設を一つの建築環境にまとめた、総合的な都市空間です。人々が集い、共有する空間を通じて、民主主義と市民としてのアイデンティティを育むという、公共建築の理想を体現しています。

フィンランドのデザインを巡る旅

ユネスコ世界遺産に登録されたアアルト建築群は、活気あふれる首都の街並みから、静かな森や湖畔まで、フィンランド各地を結ぶ文化ルートを形づくっています。これらの建築は、建築が日々の暮らしに働きかけ、人々や地域社会、自然のつながりを育む力を持つことを示しています。

アアルトの建築を訪れることは、暮らす、くつろぐ、癒やす、集うために設計された空間を実際に体験することでもあります。そこには、細部の一つひとつに明確な意図と意味が込められています。

13の世界遺産構成資産に加え、「[アルヴァ・アアルト・ルート](#)」では、フィンランド各地に点在する重要なアアルト建築やゆかりの地を巡ることができます。世界で最も影響力のある建築家の一人であるアルヴァ・アアルトのデザイン遺産を、より深くたどる旅へと誘います。

フィンランドのユネスコ世界遺産

今回のアアルト建築群の登録により、フィンランド国内のユネスコ世界遺産は **8 件**となりました。歴史ある街並みや産業遺産、独自の自然景観など、多彩な資産で構成されています。スオメンリンナの要塞からクヴァルケン群島まで、これらの世界遺産は、自然、ものづくり、地域社会と深く結びついてきたフィンランドの文化を映し出しています。

- スオメンリンナの要塞（ヘルシンキ）
- ラウマ旧市街（ラウマ）
- ペタヤヴェシの古い教会（ペタヤヴェシ）
- ヴェルラ碎木・板紙工場（ヴェルラ）
- サンマルラハデンマキの青銅器時代の墓地遺跡（ラウマ）
- シュトルーヴェの測地弧
- クヴァルケン群島

Visit Finland（フィンランド政府観光局）について

旅行先としてのフィンランドブランドを発展させ、海外旅行者にフィンランドをプロモーションし、旅行業界の企業のグローバル化を支援しています。旅行先や地域、旅行産業ビジネス、その他の輸出関連企業および大使館と協力しています。Visit Finland は Business Finland のグループ機関です。<https://www.visitfinland.com/>



Visit Finland

